



湯河原・万葉公園にて 写真提供：佐伯泰英事務所

佐伯通信

2021年7月(令和3)
第56号
発行 佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

か、髪が黒くなりぬ

一月もまえのことか、化粧室で髪を剃っていてふと妙なことに気付いた。額の生え際の真っ白な髪(数年前からほぼ白髪頭)に灰色の毛が混じっているのだ。見間違えかと思いい、女房と娘に質してみた。すると、「ああ、白髪じゃなくなってる」「後ろも黒っぽい」と二人

が驚きの声を上げた。私はすでに八十を来春に迎える。それなのに……。あれこれ考えた末に、香りがいいから整髪料がわりにと娘が買い求めた、あんず油と関わりがあるのかもしれない、と意見が一致した。このあんず油、徳川家康と中華系の呂一官の親交から生じた老舗の柳屋のものだ。呂一官は家康にとことん信頼され、天正十八年(一五九〇)、江戸入りした家康から「御朱印地」を日本橋との交差点の一角に拝領、食用紅、練紅、白粉、香油などを商ってきた。いまも

佐伯泰英／近刊のお知らせ

11月 9日	10月 13日 6日	9月 1日	8月 3日
《文春文庫》 『新・酔いどれ小籐次』 タイトル未定 21	《光文社文庫》 『吉原裏同心 36』 『陰の人』 ※「佐伯通信」第57号が入ります。 〔初版の初回出荷分にのみ挟み込み〕	《文春文庫》 『空也十番勝負 決定版 2』 『恨み残さじ』	《文春文庫》 『空也十番勝負 決定版 1』 『声なき蟬』上・下

※発売日は予定です。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2021年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が株式会社・株式会社文藝春秋の協力のもと発行します。

文藝春秋 文春文庫
『酔いどれ小籐次「居眠り聲音」シリーズ担当』
瀬尾 巧

は、はがきが!!

読者のみなさま、お変わりありませんか。
『夜の夢』をお買い上げいただきありがとうございます。佳乃が懸命に生きた四季の物語は、本巻で終幕です。恋敵であるはずが、友のように本音を交わし合う周五郎と幸次郎に、また大きな困難に遭っても、挫けずに、明るく立ち上がる照降町の人たちの姿に、大いに励まされました。佳乃、周五郎、幸次郎に幸あらんことを願うばかりです。さて、「居眠り聲音決定版」



シリーズ完結を記念して読者プレゼントを実施しました。51枚の応募券を一枚ずつ切った、はがきに貼って……という気の遠くなる作業に、果たして応募される方などいるのだろうかかと不安でしたが……なんと応募総数は4078通、そのうち3354通が全巻読破された方だったのです。はがきに貼られた色とりどりの応募券が、神々しく燦然と輝

いておりました。たくさんのご応募ありがとうございます。佐伯先生から、驚きと喜びに溢れたお言葉をいただきました。
「大変な数のご応募と聞いて筆者は、感謝の一語です。長大なシリーズを読んで頂いただけでも、光栄です。予想を超えた応募にスタッフは大わらわです。プレゼントのお届けはしお待ちください」
プレゼントを今や遅しとお待ちいただいたみなさま、ごめんなさい。読者のみなさまの愛と熱意をしかと受けとめ、8月から再始動する「空也十番勝負」に取り組みます。お引き立てのほど、よろしくお願い申し上げます。

建物に厳然と日本橋の傍らにある。それにしてもあんず油が白髪に効くのか。我が理髪師に訊ねると、「椿油でも同じような話を聞いたことがあるなあ」と。
「うーむ」なんと八十路を前に白髪頭が黒々とした髪を取り戻すのか。
読者諸氏、今後はそれがしの頭髪にご注目を。いまも妙に灰色の毛が少しずつ増えていく現象に、心底戸惑っている。

「佐伯通信」第57号は、10月13日刊行予定の『吉原裏同心 陰の人』(光文社文庫)に入ります。

磐音の子・空也の物語、ついに再始動!!

『声なき蟬』上・下

空也十番勝負 決定版 一

8月3日 発売 予定
以降、決定版を五か月連続刊行!

そして、2022年1月——
「六番勝負」となる『書き下ろし新作』刊行決定!

10月13日刊行(予定)
『吉原裏同心36 陰の人』

佐伯泰英

36 陰の人

ここが変わります!
①シリーズ名を統一して「吉原裏同心」に!
②シリーズ通算「36巻」に!
③文字だけのカバーに!

次はコレ! 『祇園会』の

※カバーデザインは変更の場合あり